

39. 脳卒中にかかるとどんな症状が現れるのでしょうか？

脳卒中では、脳の血管が狭窄したり、詰まったりして、血液中の酸素や栄養分が神経細胞に供給されなくなり、神経細胞が死んでいきます。血管が破れて出血した場合でも、その周辺の血液循環が障害されて、神経細胞が死んでいきます。脳の中の神経細胞は、脳の場所によってそれぞれ異なる機能を分担して、協調して働いています。血管障害がどこで発生したかで、症状に違いが見られます。

脳卒中のなかでも、症状が一過性ですぐ回復する一過性脳虚血発作に注意することが大切です。それは一過性脳虚血発作を放っておくと、大きな脳梗塞を引き起こして、元通りに回復するのが困難となるおそれがあるからです。

一過性脳虚血発作は通常は2分から15分の間に症状が消失しますが、長くても24時間以内には完全に回復します。一過性に現れて消失する症状として、左側あるいは右側半身の上下肢や顔面の脱力、運動麻痺、感覚麻痺あるいは異常感覚、また左眼あるいは右眼の視力消失などに伴って、ろれつが回らない、ふらつき感、物を飲み込み難いなどの症状が見られます。ただし、単独にめまいがする、ろれつが回らない、視力低下などだけの症状は一過性脳虚血性発作とは考えられません。

脳梗塞は閉塞した血管の場所、大きさなどで症状に違いがみられます。脳の血管に血栓が出来て、血液の流れが低下すると、徐々に症状が広がってきます。眠っている間、あるいは早朝の起床時に発病し、次第に症状が強くなってきます。顔面を含めて体半身の運動麻痺が起こり、持っているものを落としたり、足が上がらなくなったりします。感覚も鈍くなります。眼の症状としては、眼球運動が上手く出来ない、視野の半分が見えないようになることがあります。言葉が上手くしゃべられない、周囲がぐるぐる回るようなめまいがする、食べ物が上手く飲み込めないでむせてしまう、などの症状が現れることもあります。意識障害が無いこともありますが、軽度の意識障害は多く見られます。ラクナ梗塞では意識障害が無いことが多いのですが、物忘れなどがひどくなることもあります。

心原性脳塞栓は昼間に活動している時に突然発病し、すぐ意識障害が起こり、倒れてしまいます。同時に体半身の運動麻痺、感覚麻痺などが発生してきます。

脳出血は出血した場所と出血量で症状が違って現れます。症状は脳出血と脳梗塞とほとんど同じです。ただ、脳出血の場合は、日中の活動中に発病することが多く、脳梗塞は安静時に発病することが多いという違いがあります。また、脳出血は発病した時に血圧が高いことが多く、頭痛があり、意識障害が現れてくることが多いです。脳出血では、発病時に嘔吐やけいれんを伴うこともあります。

くも膜下出血は、突然頭を強く殴られたような激しい頭痛で発病します。頭痛は数時間で消失する軽いものから、2週間ほど続く重いものもあります。意識障害は半分位の人で見られ、数分程度で回復する軽い場合と、2時間以上続く重症のものもあります。普通は脳出血のような運動麻痺は起こりません。

慢性硬膜下血腫は転倒したり、軽く頭をぶついたりした後しばらくして、頭痛、頭重感

が始まり、やがて軽い意識障害や意欲の低下が生じてきます。また、歩きにくい、体の半分がしびれた感じがする、物忘れがひどくなり認知症の始まりのような症状が出ることもあります。頭をぶつけた覚えが無いこともあります。